

NHK 高校講座向け Web サイトの試作と評価 Web Site Design and Evaluation for NHK High School Programs: A Trial Study

鈴木克明*・弓場重貴**・猪貝達弘**
岩手県立大学*・NHK 学園高等学校**

Katsuaki SUZUKI,* Shigetaka YUBA,** Tatsuhiro INOKAI**
Iwate Prefectural University,* NHK Academy of Distance Learning**

要約：NHK 高校講座向け Web サイトを「化学」2 番組用に試作し、通信高校生に協力を得て評価した結果を報告する。自宅で独学する通信高校生にとって役立つ Web 機能を予習と復習に二分して設計した。試作サイトを当該番組で勉強する高校生に利用してもらい、その使い勝手や印象を評価したところ、肯定的な結果が得られた。本試作および評価を通して、Web 展開を視野に入れた番組制作を試みることで、制作過程が教授設計的な視点から見直され、よりの確な構成の番組がより効率よく制作できる可能性が示唆された。

キーワード：Web サイト 番組補助教材 教授設計 評価 化学

1. 高校講座 Web 試作の経緯

NHK 教育番組部は、来る高校講座番組関連 Web サイトの全面整備に向けて、2001 年秋に Web 試作のための委員会を設置し、Web サイトを試作・公開した。試作委員会は、筆者らに加えて、NHK 番組制作者と NHK 学園高校化学担当教諭及び「化学」担当放送講師（立教新座高校・渡部智博教諭）で構成した。「化学」第 38 回「カルボン酸とエステル」及び第 39 回「油脂とセッケン」を試作対象とし、番組制作と並行して Web サイトを設計・構築した（鈴木，2002）。

委員会では、一方で通信制高校での Web 活用の将来像、ならびに NHK と各高校、あるいは全国通信制高等学校研究会（全通研）が果たすべき役割を、他方で、NHK の限られた制作環境での効率的な Web 整備方法を勘案しながら、Web サイトを設計した。番組関連 Web サイトの利用目的を番組視聴前の予習と視聴後の復習に二分し、それぞれの構成要素と機能をデザインした。Web サイトの開発は岩手県立大学鈴木研究室（担当：市川尚、檜原芳仁）に委託され、完成後に NHK の Web サーバに移植した。第 38 回番組の放送日 1 週間前にあたる 2002 年 1 月 27 日に試作サイトを NHK 学校放送オンライン上に公開し、年度内の利用に供した。

2. 試作サイトの概要

試作 Web サイトでは、担当講師からのメッセージと今週の番組の内容とねらいを伝える「今週の学習」ページが最初に示される（図 1）。このページ上部には、番組全般についての情報へのリンク等が配置されている他、「先週の復習」と「来週の予習」へのリンクを設けた。ページ下部には、番組放送の 1 週間前から公開される予習のためのリンク 2 つと、放送直後に公開される復習のためのリンク 3 つを配置した。

予習のための情報は、「番組予想クイズ」と「知っておきたい予備知識」とした。「番組予想クイズ」は、放送番組の中身について期待を高めるために、身近な話題や不思議な事象について番組で提示される答えを予想させる多肢選択問題数問で構成した。回答を送信すると、それまでに寄せられた予想回答の頻度分布がグラフ表示される。自宅での個別学習を心理的にサポートする機能とした。「知っておきたい予備知識」は、番組中に用いられる既習用語について、Q&A 形式で説明を見ることが出来るページとした。番組視聴の前提条件を整えて、理解を促進させることを意図した。

一方で、復習のための情報は、「学習内容の整理」、「理解度チェック」および「番組制作



図1 NHK 高校講座「化学」向け試作 Web サイト

裏話」とした。「学習内容の整理」では、構成表に基づき、番組展開の時系列にしたがって学習内容を箇条書きと静止画を用いて整理した。視聴した番組のポイントを再確認できるように、番組で用いたフリップや実験映像の組写真（将来は動画化）を中心に構成した。

「理解度チェック」は、番組で扱った学習内容のポイントを「番組予想クイズ」と同様の形式で回答するものとした。基礎事項が理解できたかどうかを即時的に確認するための機能として、回答を送信すると、正誤情報と解説が表示されるようにした。また、学習の履歴を残したい場合には、メール送信リクエスト機能を用いて、自分の回答結果を指定したメールアドレスに送付できるようにした。

「番組制作裏話」では、各回の番組制作にまつわるできごとを紹介することで、番組についての親しみを持たせることを意図した。

3 . Web サイト試作の効用

試作サイトの機能は、利用者にとっては、放送される番組の理解をより促進し、そして理解できたかどうかを即時確認することに限定した。これは、NHK が提供する Web サイトが果たすべき役割を「番組理解の促進」に焦点化し、その他の発展的な学習に係る機能は、各学校や全通研に委ねるという線引きをしたためである。試作のための単発ものの試作ではなく、全面展開への雛型作りという点

からも、NHK サイトですべき最低限は何かを見極めた提案となった。

Web サイト試作での厳選のプロセスを通して、NHK が提供すべき学習情報について、放送テキストや学習書との関係、あるいは各学校での単位認定に係るレポート以外の学習履歴の管理、番組情報以外の関連学習環境の提供へ向けての枠組みづくりなど、誰が何をどう整備すべきかを関係各位が十分に検討する必要性が再認識できた。

同時に、Web サイトを番組制作と並行して整備していくために、番組制作のプロセスにおける成果物を Web サイトにも二次利用していく方法も検討した。たとえば、「番組予想クイズ」に番組の導入で用いられる「振りネタ」を採用し、番組のポイントを「理解度チェック」の形で再構成した。また、「学習内容の整理」は番組構成表に画像素材をリンクした形となっている。これらを意識することで、番組進行の構成だけでなく、番組の意図している学習成果が何であるか、あるいは、番組視聴に必要な前提知識は何であるかなどの再確認が制作過程に組み込まれていく必要があり、Web サイト構築によって、番組の内容そのものがより明快になる可能性も示唆された。

4 . Web サイトの評価

試作サイトの評価については、全通研のネットラーニング委員会での検討や NHK 学園高校における教職員・生徒による試用とアンケート調査などを実施した。NHK 学園高校において、試作サイトを当該番組で勉強する高校生に利用してもらい、その使い勝手や印象を評価した結果については、当日発表する。

参考文献

鈴木克明 (2002) 「デジタル化で番組の何をどう充実させてその効果をどう導き出したらよいか～NHK 高校講座向け Web の試作とフルデジタル教材の評価研究から～」 『教育メディア学会研究会論集』第 9 号、33 - 38